

## 一人暮らしを語ろう

野川 俊

私は一人暮らしが長かった。今は実家に戻って両親と一緒に暮らしているが、二十代から四十代まで一人暮らしをしていた。一人暮らしがいいわけではないが、多少居心地が良かった。独身、一人者、やめめ、余りいいイメージは無い。横文字だとシングル、これは多少よく聞こえるかもしれない。もっといい言葉はないかな？、そうだ独身貴族、若い時はいい、そう言われることもある。中年になると一人やめめに蛆が湧くとも言われる。一人暮らしに蛆が湧くか？。碌な事は無い。ああ、そう言われるのは嫌だったが、そんなに一人暮らしは悪いことなのか？。未だわからずと言いたい。平凡に家庭を持つていい父親になることが人生として最良の選択なのか？。一人でいるのは本当のところどうなのだろう？、いいのか悪いのか私には決められないのだ。人は家庭を持つ方を支持するだろうか、一人者は肩身が狭いことこの上ない。

一人暮らしは気儘、お気楽、何か無責任ばい？、無責任と言えば子供のころのクレイジーキャッツの植木等が歌うスーダラ節かな。さしずめスイスイスーダララッタ、スラスラスイスイスイとはいかないが、スーダララッタのその日暮らしが合うのかな？。ちょっと卑下していないか。もっと崇高な一人暮らしが思い浮かばないか。好きで一人でいる訳ではない。楽しくないこともない。けして寂しくは無い。本当か？。一人暮らし慣れしている。これも本当は困る。落ち着いて考えても良くないよなあ。一人暮らしが長いと何事も億劫になる。億劫がる。生活にリズムがなくなる。これは本当だ。

だから、何事も行動的になるしかない。好きなことが出来る。開放感がある。私生活は自由だ。やりたいことを好きにやればいい。束縛がない。世界は無限に広がっているかも知れない。だのに、意外と臆病だ。自由を謳歌していない。人の目を気にしている。引け目がある。いいことを書くつもりで思ったのにだんだん悪くなってきた。人生って何だ？。

目標がない。一人暮らしは至ってそれに陥るじやが多い。それは避けなければならぬ。

束縛がない分、何を目標に持てばいいのかわからなくなる。人と同じことはしたくないと常に思っていた。でも、人生設計だとか当面の目標となるといかにも弱々しい。

たとえば、サラリーマンで出世する。正直余り考えたことはなかった。否定も肯定もしないが、それが何になるんだという思いはある。世間体がいい。人よりお金が貰える。人より努力した方だ。自分を偽っても会社に順応した。出世が男を作ると考える。その人にとってはいい人生かもしれない。でも本当にそれがいい人生なのかな？。その逆って人生を面白くするってことあるのかな？。あるかもしれない？。無いかもしれない？。やってみないでわかるようなことは言いたくない。会社人間とか仕事人間って人にもよると思うが、自分を狭くしてまずと言っているように思えて嫌だな。我が道を行くというのが人生の理想なんだがな。それは強い意志とより以上の努力が必要なんだ。より困難も大きいんだ。逆にそれでは私のような凡人では何も出来なくなってしまう。凡人は寂しいなあ。挫折しどうしだ。希望はあっても中途半端になることが多い。そうすると努力が足りない。いと誰かさんが言う。ああ、人間というものは元来、狭い社会でしか生きられないのかな？。

一人暮らしを目標にする人はいないだろうな。家族を考えてみた。人の源となる社会生活の単位だ。一人暮らしだと社会生活が成り立たない。親はあっても子や孫は永久にない。そう考えると少し寂しい。一人では個人であっても家族の単位にはならない。家族を大切に思うことは自分を大切にすることに他ならない。一人でいれば永久に自分の血筋は絶える。これも自分の運命と考えればそれに従うことで良しと考えるでもない。家族に憧れることは多いが、それがすべてとは思えない。結婚は憧れるほど考えていなかった。一人でいる方がいいと思うことの方が多かったかもしれない。許嫁に引かれた。その古風な響きが良かった。恋愛やお見合いより引かれるものがあった。多分自分はナルシストだ。自分が一番好きかもしれない。ちょっと草臥れたナルシストだ。若い時からナルシストの気はあった。

結婚を考えてみた。私はプロポーズしたことがない。結婚出来なかったとも言えるが、結婚したくなかったとも言える。二十代は結婚したくなかった。結婚がいいものと思えなかったからだ。出来れば遅ければ遅いほどいいと思っていた。結婚を義務と思つようになると辛い。楽しみもあると思つが、苦痛でもあった。

何故なのか？、それを問い掛けてみた。長い目で見れば人生で大切なことだ。父親になり、お祖父さんになり、肉親に見守られながら、人生を全う出来ることは幸せだろう。でも、すべての人間がそうではない。すべて同じ価値観でみられるのを良しとしないことも

ある。平凡は嫌だ。何故一人がいけない。子供は可愛いが、いなくても後悔しない。人生を捨ててるわけではない。それなりに努力はしている。別にお父さんとかおじいちゃんとか言われなくてもいい。自分だけの価値観が欲しいんだ！。結婚の価値観は一律ではない。結婚したくなくともいいじゃないか。自分の自由にさせてくれ。昔からの通例ではなくどうして結婚しなければいけないのか教えてくれ。考えれば考えるほどわからなくなってしまう。それだったら最初から決められていた結婚の方がいい。

男で結婚に憧れる人は多いのかな？。私は結婚に憧れることはなかった。ただ、恋愛をして結婚に至ればいいと思っていた。結婚に憧れる男がいたら、そんな男、私は気持ち悪い。絶対可笑しいぞ。私は昔、女の人を買い被っていたところがあった。まるで聖母マリアのように。美しく、実際より美しく思って止まなかった。それも憧れというのかな？。一人でいれば夢の続きは永遠なりかな？。

結婚なんて！と思うこと多かったかな？。結婚も出世の手段なんて輩はいるだろう。俺（私）は嫌だ。でも、社会の中では結婚しないと何も望めないように思えることもある。

結婚は何事も神聖で厳かに、真実の愛でなければならぬ。だから結婚出来ないのかな？。私は頑なに結婚したくないと思ったことがある。失恋とかの影響ではない。それで自分の人生の青写真が決まってしまうことが嫌だった。夢の狭間で真実の愛を願った。愛なんて、俺（私）には似つかわしくない！。私の目指した結婚は年と共に失われた。純粋がいい。雑念がない。一筋だ。駈け落ちた。希望しかない。愛が満ち溢れている。それじゃ虚構だ。駄目だ！、嘘だ！、妥協のない結婚も息が詰まる。じゃ、どうしたらいいんだ！。一人もんで何が悪い！。俺（私）の好きにさせる！。干渉するな！。俺（私）は一人もんでいいんだ！。それでいて世間を気にする妙な性。我関せずという態度は取れないのか。一人もんでも生きやすい世界はけして人間社会では良く思われぬのだろうか。そんなことも考えてしまつくらい世間が冷たく感じることもある。一人でも強く生きるんだ。寂しくなんかない。一人を楽しんじゃえ。お前等にわかってたまるか！。一人もんはそんなに楽じゃないんだ。結構プレッシャーはあるんだ。

だったらなぜ結婚しない？。そうつまくはいかないんだ。いざ結婚を考えると二の足を踏む、勢いで行けない、人生の墓場を連想したりもする。今の気持ちはどうなんだ？。この女性は自分に最良なのか？、本当にこれでいいのか？、妥協していいか？、さまざまに思い巡らす。何故弾まないのだろう？。結婚に向かないんだ。マイナス思考が頭を擡げてる。

そんなことじゃ一生結婚なんて出来やしない。自分で決められないんだ。確信が持てないんだ。結婚即ち幸福という図式にはならないんだ。本当に彼女が好きなら、即結婚も出来たかもしれない。その気になったかもしれない。現実の私はだんだん萎んでいくんだ。最初は勢いがあるがだんだん萎えてしまつんだ。熱が冷めるんだ。普通の人より早いんだ。もう結婚なんてどうでもいいんだ。

私の初恋は美しかった。美し過ぎたのだ。余りにも清纯過ぎたのだ。初恋は楽しかった。嬉しかった、切なかった、いい思い出だった。私には勿体無いほど清らかだった。その時代が一番良かった。

それから年を重ねれば重ねるほど汚れていくのだ。付き合つて別れた女はいい。行きずりの女、風俗の女。心を乱す誘惑も多かった。浮ついた時期もあった。最初の行きずりの女がいけなかった。女を見下した。女は馬鹿だと思った。でも女は強かった。自分は浮ついた子羊のようだ。しっかりしていない、楽な方に靡く、楽しければいい、甘い誘惑に弱い、遊びは楽しい、女にもてようとして気を引くことばかりする。ああ、情け無い。

結婚する資格が無いのだ。彼女を幸せに出来ないのだ。躊躇ばかりする。優柔不断だ。責任を取らないのだ。いざとなると逃げ出すのだ。本当に好きな人はいなかった。学生時代に付き合つた彼女の方が良かった。女性を恐れていたかもしれない。中途半端な恋愛しかしていない。結婚を恐れていたかもしれない。女性に癒しを求めて甘え、男らしさは二の次だった。彼女に甘えて何も与えていなかった。自分勝手だった。妙な自信があった。多少もてた時もあった。勘違いもしていた。結婚して彼女を幸せにしようという意識が薄かった。でも本当に好きな人は現われなかった。この人という女性は私の前には現われてくれなかった。だから一人でいるのだ。言い訳も入っている。恋愛の努力が足りなかった。人はきつとお前が悪いんだと言つたろう。高望みしているという人もいるだろう。でも是非結婚したいと思つような人がいたならば、間違い無く結婚していた筈だ。結婚したいと思つた筈だ。不幸なことにそれが無かった。

もし私が結婚したら？を考えてみた。最近多い出来ちゃった結婚はまず無いだろう。私に言わせればあきらめ婚、避妊失敗婚、避妊してない婚になつてしまつ。恋愛とか新婚時代は子供はまだいらなと思つてしまつから避妊するはずだ。避妊の仕方くらいは知っているから、きつとそつするだろうから、出来ちゃった結婚はまず無いというのが理由だ。もし私が出来ちゃった結婚をしたならば、焦っているか、もう決めちゃえみたいなあきらめに近いものか、成り行きまかせか、避妊失敗といつことになるのだろうか。

私が普通に結婚するなら、きつとやっぱり今と同じで結婚してないだろう。自明の理といつところか。お仕着せがましい滅茶苦茶お堅いお見合い結婚か、責任取らざる負えないようなことをして結婚するか、そんな結婚しかないようだ。それが出来ちゃった結婚も入るのだ。少なくとも私は嫌だ。何回かお見合いをしたり、ねるとんパーティーにも行ったが、結婚の為の出会いには苦手だ。恋愛から結婚へ、気が付くと知らぬ間に二人で住んでいたがいい。私の結婚は理想も現実も随分かけ離れていて遠くにいるように思えるのだ。

もし自分に子供がいたならば、自分に似て欲しくないのだ。似ていると言われるのは正直嫌だとさえ思える。碌な大人にならない？という言い過ぎかもしれないが、気の利いた大人になりそうもないのだ。人に目鼻立ちがそっくり、声がそっくりなどと言われたら嬉しい気持ちもあると思うが、成績が悪い子だったらいい気はしない。子供は良いところよりも悪いところが親に似ることも多いのだ。鳶が鷹を生むような子だったらいいが、そんなことは現実には少ないだろう。夢が無いと言ってしまえばそれまでだが、自分に似ていない全く人格の違う人間の方が嬉しいのだ。自分に無い可能性を持った子で生まれて欲しいのだ。それも親の高望みか？。自分の子供はいいところに落ち着いて、良くも悪くも親に似るのだ。余り似ないで高く飛び立って欲しいのだ。その方が私は嬉しい。その可能性が少ないから子供がいなくても少し安心出来るのだ。自分に自信が無い裏返しか？。そう取れないこともない。自分の子ではたかが知れてると思うからいけないのか？。五体満足であれば？、それでは子供に失礼だ。子供の可能性は親が握っている。性格も能力も親が引き出せないで何になる。親の使命は高いのだ。私には高過ぎて手に負えないのだ。自分の道もろくすっぽつまく出来ないのに、子供達に未来を託すなんて出来やしない。普通でいいのだ。ごくごく普通でいいのだと思っしかない。普通って何だろうと思いつながら…。私には子育て何て難しくて出来やしない。もし自分に子供がいたら、一つだけ似ているところがあって、私より優れてさえいてくれればいいと願うだけが関の山だろう。

一人の暮らしぶりを語ろう。私は一人暮らしがいいのか悪いのか苦にならない方だ。洗濯は週一回必ずしていた。洗濯物が多ければ週二回することもある。結構清潔好きなんだ。鼻歌交じりで洗濯物を干す。男が洗濯物を干してる姿はちょっと気恥ずかしい気もするが、けして苦にはならなかった。Yシャツはよくクリーニングに出していた。季節の変わり目の入れ替え時期にスーツ、Yシャツ、コート、セーターなどまとめてクリーニングに出して、洋服ダンス、衣装ケースには季節ごとにいつも防虫剤を入れて保管していた。掃除だつて月に一度や二度は必ず掃除機をかけて畳や床を掃除したり、叩きは無かったが埃や汚

れを拭き取る雑巾掛けもする。たまにトイレ掃除もするぞ。その日の気分で捗ったり、途中で投げ出しちゃったりすることもあるが、気儘にやるのが一人暮らしのいいところだ。

自炊はしなかつたなあ、外食ばかりで。弁当も多かつたかな。たまに麺類だけは作った。好きなみそラーメンはミックスもやしと挽肉を入れて作った。そば、うどんも作った。夏は素麺、冷麦も作った。麺類はよく作っていたと思う。男の一人暮らしでは自炊に限度はあるだろうが、やっておくべきだったと思う。今からでも遅くはないが、老後の一人暮らしの楽しみになるかもしれない。

休みの日は出かけることも多かつた。必要な物があればスーパーなどに買い物に行った。パソコンを始めたころはよくパソコンショップにも行った。パチンコにもある時期よく行った。好きな釣りや冬はスキーにも行った。年に一回は親を連れて旅行をした。一人暮らし以外は何不足なかつた。一人暮らしで何不自由しなかつた。それが悪いと言われればそれまでだが……。アパートにいる時はテレビを見たり、CDを聴いたり、ビデオを見たりすることが多かつた。釣りで使う毛鉤作りもする。雑誌も読む。たまに小説も読む。家でじっとしていることは少なかつた。別段スキルとハイドのよつに変わることはなかつたし、ごく普通な生活を送っていたが、一抹の寂しさはあつたよつに思う。一人でいるとじっとしていられないので何かしようとする。年と共に落ち着くが、何かしないと不安というか、紛らわすようなことをしていた節がある。それでもけして否に思ったり、閉じ籠って暗くなることはなかつた。

次に私の趣味を語ろう。釣りとスキーが好きで、今でも釣りはライフワーク、スキーは四十代まで現役スキーヤー。最近スキーは御無沙汰していて、年と共に行く機会が無くなつてきた。一人でも行きたい気持ちはあるが、一人じゃつまらないスポーツではある。一人で何回か行ったことがある。スキーほどグループで行く方が楽しいレジャーはない。若い時と比べるとだんだん人数が年と共に減ってくる。家族でスキーに行けないからなあ。家族でスキーも悪くないだろうなあ。

釣りは仲間と行くのも楽しいが、一人で行って楽しいものだ。一人で行く方が心置きなく釣りが出来る良さがある。自分のペースでのんびり、ゆっくり、おおらかに一人の釣りも楽しむ。釣り友達との釣り談義も楽しいし、蘊蓄話も聞いたり、話したりも面白い。今一番気に入っているフライフィッシングという西洋式毛鉤釣り、これは蘊蓄ごだわりの宝庫だ。私はこの釣りが理に叶つた釣りだと思つている。釣人の個性が発揮出来、釣れた時の爽快感がいい。主に溪流や湖で釣りをする。数は釣れぬが満足多く、されど悔しくま

た通つという川柳が出来そつだ。

一人暮らしはマンネリの宝庫だ。長く続くと特にそつだ。夫婦関係でもあるのだから、まして一人者には張り合いも必要だ。私の場合は仕事と言いたいが、サラリーマン社会では一人者は不利に写る。仕事に張り合いが持てない分、趣味や思考に走る。結婚とは何ぞや、恋愛とは何ぞや、人生とは何ぞや、生きるとは何ぞや。いろいろ考えても答えは出て来ない。

なぜ人と同じことをしなさいといけないの？。みんなで渡れば恐くない？。勉強をして、社会に出て、結婚をして、子供を作つて、家庭を持つて。破天荒な人生を憧れながら。堅実という妄想を抱いて。道を外れちゃいけないの？。外れるか外れないかの宙ぶらりん。それも面白いと言つて笑い飛ばしてみたいなあ。社会に外れてみたいなあ。留まりながらも他に何かがあるようで、見つけれないもどかしさ。喜怒哀楽とはいかに。人が宝、命が宝、どのよつに生きても人生は宝だ。ならば好きなよつに生きるがいい。歴史の中で生きれない時代があつた。死に行くこともあつた。人間には過ちもある。個人は社会に流されることもある。自分勝手に生きてみたい。出来ればそれが幸せだ。出来ないから、社会に阿くよつに生きるのだ。

生まれてもつすぐ五十年、ごく普通つぽく生きてきた。悪いこともしないがいいことも余りしていない。人に迷惑もかけたこともある。意思を通して失敗したこともある。頭が無い癖に考え過ぎる。考え過ぎる割りに突発的な行動もする。人生はロダンだ。結論のない、袋小路のロダンだ。私に知恵を与え給え。虫のいい人生を考えていたかもしれない。煩わしいことを避けていたかもしれない。真実といつか心根といつか、嘘偽りの無い世渡りの下手な人生でもいい。自分の良いと思つた価値観で生きてみたい。もつすぐ五十歳なのに未だ迷い続ける。スカツと行こうぜおやじ！。自分を信じて引け目に思つな！。個人の尊厳は尊いのだ。

一人暮らしはけしていいとは思わない。ただ一人者にしろ家庭持ちにしる人生は二つだ。神に与えられた一生だ。一人者には自己犠牲は無い。それを良しとして人生を自分の為に生きるか。人の為になることもしてみたい。家族持ちは妻や子供の為に働き、多少自己も犠牲にして家族の幸福を願つ。一人者は何も無いから自らの人生を認めて貰いたいと思ひ願つ。認めて貰わなくてもいいじゃないか。自分が納得出来たらいいんだ。押し付けの人生と思つからいけないんだ。自由に羽ばたけ。けして悪いことをしている訳ではないのだから。

